

第19回 男女共同参画フォーラム in 福島 開催報告



常任理事 玉城 研太郎



第19回男女共同参画フォーラム プログラム

日時 令和7年5月17日(土)
フォーラム 14時～ 懇親会 18時30分～
会場 郡山ビューホテルアネックス 4階「花勝見」
主催 日本医師会／担当 福島県医師会

メインテーマ
「ダイバーシティを踏まえたキャリア支援」

総司会 福島県医師会 常任理事 市川 陽子

開会 福島県医師会 副会長 坪井 永保
挨拶 日本医師会 会長 松本 吉郎
福島県医師会 会長 石塚 尋朗
来賓挨拶 福島県知事 内堀 雅雄

基調講演

- 座長 福島県医師会 副会長 矢吹 孝志
- 「日本酒は故郷の誇り～福島市唯一の造り酒屋を守りたい～」
金水晶酒造株式会社四代目蔵元・取締役会長 斎藤 美幸
 - 「女性医師のキャリア形成に壁はあるか」
藤田医科大学ばんだね病院 脳神経外科 教授 加藤 庸子

令和7年5月17日(土)、福島県郡山市の郡山ビューホテルアネックスにて、第19回男女共同参画フォーラムが華やかに開催されました。全国から多くの医師や関係者が集まり、「キャリア」「育児」「地域医療」「ダイバーシティ」など、多彩でちょっぴりアツいテーマについて、熱心な議論が繰り広げられました。

フォーラムは、福島県医師会副会長・坪井永保先生の開会宣言でスタート。その後、日本医師会長・松本吉郎先生、福島県医師会長・石塚尋朗先生、福島県知事・内堀雅雄氏のご挨拶が続き、福島の地でこの意義深い会が開かれたことの喜びと期待が伝わってきました。

基調講演の1つ目は、福島市唯一の酒蔵「金水晶酒造」の斎藤美幸社長によるお話でした。「日本酒は故郷の誇り」という演題の通り、伝統ある酒蔵の再建と、女性としてのキャリアと向き合ってきたご自身の経験を、あたたかく、時にユーモラスに語ってくださいました。震

報告

1. 日本医師会男女共同参画委員会
日本医師会男女共同参画委員会 委員長
小泉ひろみ

2. 女性医師支援センター事業
日本医師会 常任理事 松岡かおり
休憩 (10分)

シンポジウム

- 座長 福島県医師会 副会長 今野 修
コメンテーター 日本医師会 常任理事 渡辺 弘司

1. 「福島県が取り組む地域医療と
若手医師のキャリア支援」
福島県保健福祉部医療人材対策室長 新妻 崇永

2. 「チーム医療はチーム育児へ」～同じ診療科で働く
夫婦医師が共に育児休暇を取得した病院の組み
みと新制度活用の意義～
社団医療法人養生会かしま病院 診療部
部長 中山 文枝

3. 「人生の終わりに『ありがとう！幸せでした！』と
思い合える生き方を探して」～5人の子供と男
性育休、地方(福島) 移住で得た宝もの～
大原総合病院 脳神経外科部長 岩楯 兼尚

総合討論

次期担当県医師会会長挨拶

- 沖縄県医師会 会長 田名 毅
福島県医師会 副会長 齊藤 道也

災で全壊した酒蔵を新たに立て直し、女性や高齢者も働きやすい職場づくりを進めた取り組みは、まさに“多様性”そのもの。女性が安心して暮らせる地域こそ、持続可能な社会の土台であることを教えていただきました。

続く講演は、藤田医科大学の加藤庸子教授。「女性医師のキャリア形成に壁はあるか？」というテーマで、ご自身の国際的な活動を交えながら、性別や年齢にとらわれず「適材適所」を実現することの大切さを語ってくださいました。「その仕事にふさわしい人に任せる」というシンプルな視点が、ダイバーシティ推進の鍵だというメッセージが心に残りました。

報告セッションではまず、日本医師会男女共同参画委員会の小泉ひろみ委員長より、活動の変遷と現在の取り組みについて紹介がありました。女性医師の支援だけでなく、男性医師にも

目を向けた意識調査など、まさに「ともに活躍できる医療界」への一步を感じました。

次に、日本医師会の松岡かおり常任理事より、女性医師支援センター事業の報告がありました。育児・介護など様々なライフステージを乗り越えるための「女性医師バンク」や、再就業を後押しする講習会など、現場のニーズに応じた支援の内容に、参加者の関心も高まりました。

午後からのシンポジウムも、聞きごたえたっぷりの内容でした。まずは福島県の新妻崇永氏より、県内医療の現状と医師確保の課題について発表がありました。特に医師不足の南会津・双葉地域への支援策として、修学資金制度やドクターバンクなど多様な取り組みが紹介され、地域医療の最前線の現実が伝わってきました。

次に登壇した中山文枝先生(かしま病院)は、ご自身の診療科で夫婦医師と一緒に育休を取得した取り組みを紹介。「チーム医療はチーム育児へ！」というスローガンそのままに、育休取得をきっかけに職場の風土が大きく変わったとの報告は、思わず会場からも頷きが。育児がキャリアの終わりではなく、新たな始まりになる、という視点が多くの参加者の胸に響きました。

そして、大原総合病院の岩楯兼尚先生の講演では、5人のお子さんを育てながら福島に移住し、男性として育休を取得したご経験が語られました。「キャリアとは人生そのもの」というメッセージは、働き方や生き方を見つめ直すきっかけになりました。子どもたちの成長に関わることが、医師としての視野や人間性の幅を広げてくれるというお話に、会場全体があたたかな空気に包まれました。

最後の総合討論では、参加者から多様な視点での質問や意見が寄せられ、電子カルテの標準化やAI活用、若手医師のモチベーション、大学病院への医師確保など、現場のリアルな課題が共有されました。議論の中では、「ワークライフバランス」が今や男女問わず重要なテーマであること、そして上の世代が模範を示すことで次世代を支える必要性も改めて確認されました。

日本医師会の渡辺弘司常任理事による総括では、「本フォーラムの内容は、性別の枠を超えた多様性の推進であり、大きな意義があった」とまとめられました。学生や若い医師たちにとっても学び多き内容であり、これからの医療界のあり方に希望が持てる時間となりました。

そして、次回第20回男女共同参画フォーラムの開催地となる沖縄県医師会より、挨拶がありました。「ちむどんどん (=心が躍る)」という沖縄の言葉に込めた想いととも、「令和8年4月4日、ダブルツリー by ヒルトン那覇首里城でお会いしましょう!」という呼びかけで、会場は未来への期待で明るく包まれました。

さてさて、次回の男女共同参画フォーラムは、ついに我が沖縄県医師会が担当させていただきます! 記念すべき第20回ということで、全国の先生方に**「来てよかった~!」「語ってよかった~!」**と心から感じてもらえるよう

な、楽しくて熱くて、そしてちょっぴり胸アツなフォーラムを目指して、医師会理事会・事務局・準備委員会一丸となって絶賛準備中です! テーマはズバリ、「チムドンドン」するフォーラム!

みんなが“医師”という仕事に誇りを持って、そして“家族”や“趣味”“人生”も大事にしなが、未来を語り合える時間にしたい! 会場は、那覇の名所・首里城のふもとにあるグランドキャッスル (ダブルツリー by ヒルトン那覇首里城)! 開催日は、令和8年4月4日 (土)!

そう、4並びで覚えやすい! (←ここポイント) フォーラムが終わったら、首里城に登って夕焼けを見るのもアリ、海風に吹かれて泡盛で乾杯もアリ! 楽しみ方は∞ (無限大) です!

来年は是非“チムドンドン”しに来てくださいね!

お知らせ

沖縄県文化観光スポーツ部観光振興課からのお知らせ

おきなわ医療通訳サポートセンターについて

沖縄県では、外国人観光客の医療問題に対応すべく、多言語コールセンター (名称: おきなわ医療通訳サポートセンター) を開設し、医療機関向け①電話・映像医療通訳サービス②簡易翻訳サービス (医療機関向け)③インバウンド対応相談窓口 (医療機関向け) をすべて無償で実施しております。

各医療機関におかれましては、是非、有効利用下さいますようお願い申し上げます。

【問い合わせ先】
「おきなわ医療通訳サポートセンター」
医療通訳サービス運営事務局
(受託事業者: 株式会社 BRIDGE MULTILINGUAL SOLUTIONS)
☎ 0570-001-003

無料

24時間365日対応



① 電話・映像医療通訳サービス (26カ国語対応)

0570-050-232

② 簡易翻訳サービス (19カ国語対応)

okinawairyou-honyaku@bridge-ms.com

9時~17時・平日

③ インバウンド対応相談窓口

okinawairyou-soudan@bridge-ms.com
0570-050-233



←詳細はこちらからご覧ください
<https://www.pref.okinawa.jp/site/bunka-sports/kankoshinko/ukeire/iryoutuyakukoruserantar.html>

印象記

第19回 男女共同参画フォーラム in 福島印象記
～次なる課題は性別に関わらない管理職離れをどう食い止めるか～



理事 銘苺 桂子

医療界では急速に女性医師の比率が上昇しているにも関わらず、男女共同参画の実現は未だ試行錯誤である。社会での活躍、管理職への期待は女性へのプレッシャーとなり、バーンアウトやメンタル不調をきたしている。その最も大きな原因は、育児や家事、介護は女性の仕事とする「家庭内性別役割分担意識」というアンコンシャスバイアスであり、抱えられないタスクに押しつぶされてしまうのである。講演やシンポジウムを通じて語られたのは、「ダイバーシティの実現は、誰かを優遇するためのものではなく、誰もが能力に応じて誇りをもって働ける環境づくりである」というメッセージであった。女性医師支援はもう必要ないのでは？という問いがあるならば、その答えは「どんなに職場の環境を整備しても、今もなお性別役割分担意識の残る家庭にいる女性医師には配慮が必要」である。

昨今、臨床実習中の男子医学生は「育児をしたい、育休を取りたい」と口を揃える。女子医学生は、「家事や育児を分担してくれないパートナーでなければ付き合えない」という。あと10年もすれば、ワークライフバランスの確保は男女を問わずにますます優先事項となり、男女共同参画は当然のこととなるであろう。その時危惧されることが、管理職になりたい医師が男女ともに減少することである。管理職は「プレイングマネージャー」として医師の仕事と管理職の二つの役割をこなさなければならないことが多く、働き方改革によって時間外労働の削減が求められる中、管理職への業務負担はさらに増加している。それゆえに若者からは「罰ゲーム」と揶揄される。管理職に専念できる体制、裁量のある働き方、責任に見合った報酬の確保により、若者が管理職を目指したいと思える環境整備が求められる。

来年開催される第20回大会は沖縄開催である。多くの医師が、ワークだけに注力しない社会となったとき、男女、世代、役職を超えて“ちむどんどん”できる医療界とするにはどうしたらいいのか、多くの方と議論できる実りあるフォーラムとしたい。

